

ロックンロール セカンド・ライン

ロックンロールの特徴

ロックンロールは、カントリー同様
1950年代にアメリカで誕生したジャンルです。

ブルースやゴスペルなどの黒人音楽をベースに、
カントリーなど白人音楽のスタイルを融合させてできたジャンルで、
ブルース由来の土臭さと、カントリー由来の軽快さをあわせ持ちます。

そんなロックンロールの特徴は以下の通りです。

- 踊れる！軽快な8ビート！
- ブラックミュージック由来の「裏ノリ」
- 50年代らしいルーズな音色

踊れる！軽快な8ビート！

ロックンロールは、ロック同様8ビートで演奏されるのが基本。

一方、パワフルでヘヴィなロックに対して、
つい体を動かしたくなるような軽快で楽しげなビートを持つのが
ロックンロールの特徴でもあります。

その特徴から、ロックンロールに合わせて踊る
「ツイスト」と呼ばれるダンスが生まれたほど。

ロックのルーツとはいえ、全く別ジャンルであることが窺い知れますね。

ブラックミュージック由来の「裏ノリ」

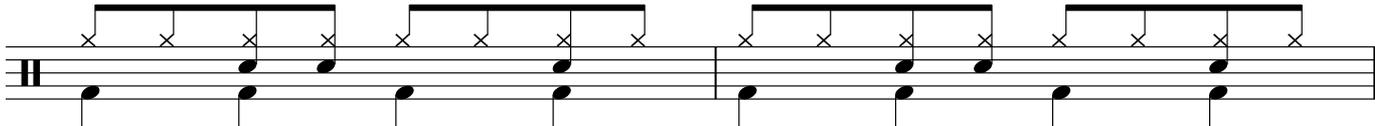
ロックンロールとロックの違いは、そのノリにも現れています。

黒人音楽がルーツであるロックンロールは、
ブラックミュージック特有の「裏ノリ」が大きな特徴です。

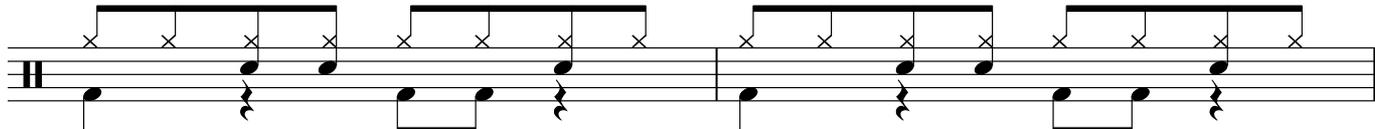
ヘッドバンギングが象徴的な「表ノリ」のロックとは対照的です。

ロックンロール

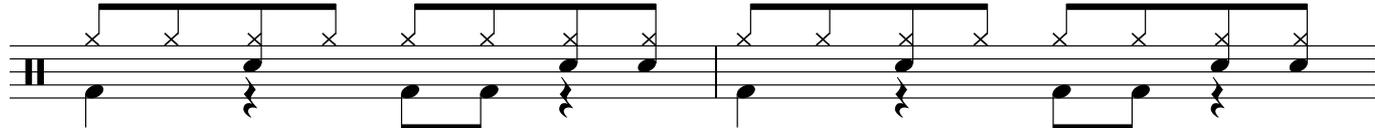
パターン①



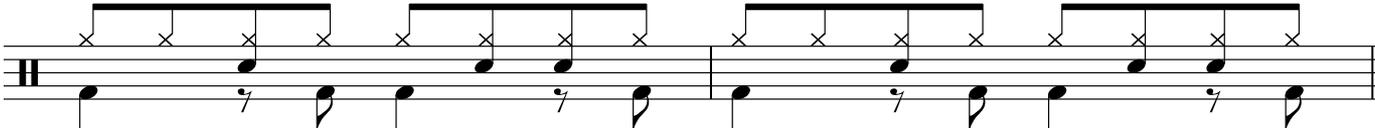
パターン②



パターン③

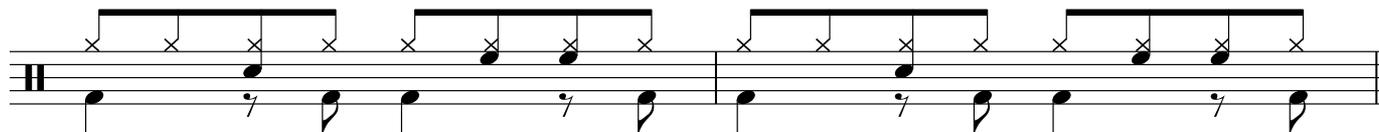


パターン④

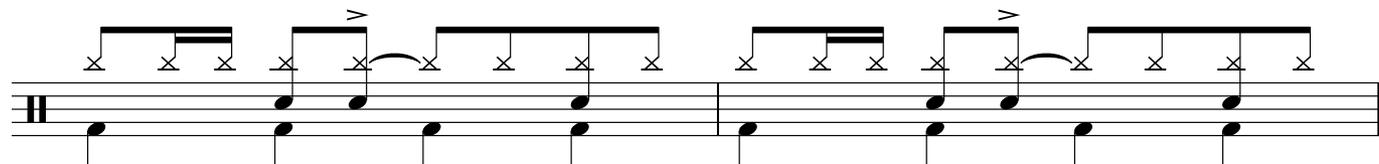


ロックンロール

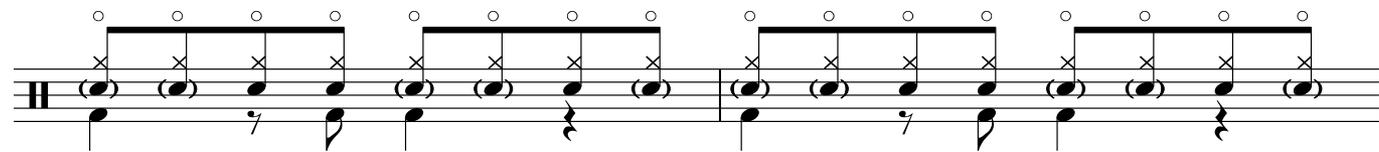
パターン⑤



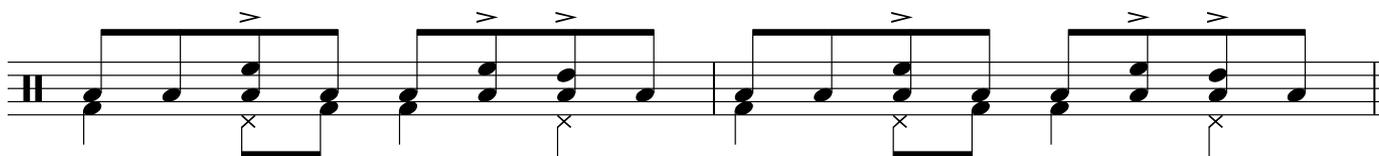
パターン⑥



パターン⑦



パターン⑧



セカンド・ラインについて

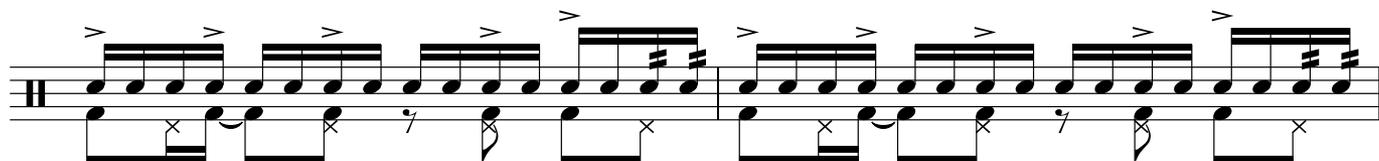
すこし脱線しますが、カントリー番外編として「セカンド・ライン」というリズムパターンについてもお伝えしておきます。

「セカンド・ライン」とは、アメリカのニューオーリンズ発祥の音楽。もともとは「ジャズ・フューネラル」と呼ばれる、黒人の葬儀パレードで演奏されたリズムパターンです。

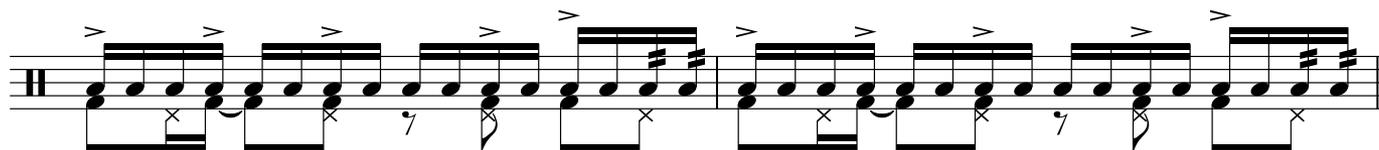
パレードの先頭には遺族や関係者の列（ファースト・ライン）が並び、それに続いて「セカンド・ライン」と呼ばれるブラスバンドが音楽を演奏したことが由来です。

セカンド・ライン

パターン①



パターン②



ロックンロールの音色選び

ロックンロールの音色は、
カントリー同様に「50年代らしいルーズな音色」を意識します。

年代的な背景もさることながら、
ロックンロールはブルースから派生したジャンルでもあることから、
同様の特徴をもった

- 少し低めのピッチ(音程)
- ルーズなアタック(打音)
- 強めのルーム感(余韻)

といった音色を選ぶと良いでしょう。

ロックンロールの打込みのコツ

■ ロックンロールのベロシティ

ロックンロールのベロシティは、原則として「8ビート」のそれにならって設定する形となります。とはいえ、前述の通りロックンロールは「裏ノリ」が前提となるため、ウラ拍を若干強めに設定すると、よりそれらしくなるでしょう。

■ ロックンロールのクオンタイズ

ロックンロールのクオンタイズについても、通常の「8ビート」の考え方にならって配置するのが良いでしょう。8分音符のハイハットは、ウラ拍を若干スウィング。スネアは若干プッシュさせてあげることで、気持ちの良いノリが表現できます。

セカンド・ラインの打込みのコツ

■ セカンド・ラインのベロシティ

セカンド・ラインは、なんといっても特有のアクセント感が命。
ベロシティにおいても、そのアクセントを活かしつつ、
その他の細かい音符についてはさりげなく鳴らす程度にしましょう。
とくに、4拍目ウラのフラムは特に優しいタッチを意識して打込みます。

■ セカンド・ラインのクオンタイズ

セカンド・ラインにおいても、16分音符にはスウィングを適用します。
わりと強めにかけてシャッフル気味に聞こえるくらいで
ちょうど良いかと思えます。